

## 2004 年度 委員会活動成果報告

( 2 0 0 5 年 3 月 1 6 日作成)

委員会名	建築計画学術体系小委員会	主 査 名：門内輝行
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2003 年 4 月 ～ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>工業社会から知識社会へと時代は大きく転換しつつあり、建築のあり方に大きな変化が生じている。その中で、環境共生、都市再生、アメニティ創造、ユニバーサルデザイン等の新しいニーズに対応した建築計画の実践、国際建築家資格に対応した教育改革・高度な実務教育の推進などに対する社会的要請が高まっている。こうした状況をふまえて、次の3点を目標とする委員会活動を展開する。</p> <p>①質の高い建築を誘導する建築計画の学術体系の構築 ②研究と実践をリンクする新しいメディアの刊行 ③建築計画のためのナレッジマネジメントの推進</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	門内 輝行 (京大), 在塚 礼子 (埼玉大), 糸長 浩司 (日大), 上野 淳 (都立大), 大野 隆造 (東工大), 小野田 泰明 (東北工大), 小林 秀樹 (千葉大), 佐藤 文昭 (三菱総研), 篠崎 道彦 (芝浦工業大学), 積田 洋 (電機大), 西出 和彦 (東大), 松村秀一 (東大), 吉村 英祐 (阪大)	
設置 WG (WG 名: 目的)		
2004 年度予算	135,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004/04/15 8 名 2004/06/11 7 名 2004/07/07 9 名 2004/07/25 9 名 2004/08/03 3 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>大会において、「建築計画の学術体系のあり方を問う一フレームワークの再編に向けて」と題する研究協議会を開催した。そこでは、建築計画の理論と実践の両面にわたるフィールドの広がり視野に入れつつ、周辺領域との連携を図り、研究と設計との有機的な結びつきを回復することによって、新たな建築計画の学術体系を探究した。この研究協議会に合わせて、①建築計画のシラバスの収集・分析、②計画研究・計画事例のレビュー、③建築計画のフィールドの再編、④新しい学問領域・ビジョンの提案、⑤建築教育・職能・社会的状況との関連等の内容をまとめた資料集を刊行した (178 頁)。</p>
	委員会 HP アドレス :
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>1) 質の高い建築を誘導する建築計画の学術体系の構築 社会的状況における建築のあり方、建築学周辺の諸分野や建築学の諸分野との関連などをふまえて、生活の豊かさを追求する知識社会にふさわしい建築計画の学術体系の理念を構築することが出来た。</p>

その他評価すべき 事項	
----------------	--